

フランス語スキル(原典講読) 2017 年度 春学期 金曜日 2 時限

担当教員：宮代康丈

科目概要

このクラスでは、フランス語の正確な読解力の向上を第一の目的に据えます。フランス語に慣れるために、一回の授業でたくさんのページを読み進めますが、それでも各種の単語や表現、構文については緻密な理解を求めます。また、そうして身につけた事項を、自分でフランス語の文章を書くときに、実際に応用して使えるようになれば、この授業の目的は完全に達成です。

主題と目標/授業の手法など

このクラスでは、フランス語の正確な読解力の向上を第一の目的に据えます。フランス語に慣れるために、一回の授業でたくさんのページを読み進めますが、それでも各種の単語や表現、構文については緻密な理解を求めます。また、そうして身につけた事項を、自分でフランス語の文章を書くときに、実際に応用して使えるようになれば、この授業の目的は完全に達成です。

今学期は次の本をテキストにします。

Georges Simenon, *La Tête d'un homme*, Paris, Hachette, adaptation du texte par Charles Milou, coll. « Lire en Français Facile », 2014.

この本は、ジョルジュ・シムノン『男の首』（フランス語初版 1931 年）をやさしい語彙や表現で書き換えたライト版です（DELF B2 レベル）。インテンシブの授業などで文法事項をひと通り習得していれば、書かれている内容を把握するのはさほど難しくありません。

ジョルジュ・シムノン（1903-1989）はベルギーのリエージュ生まれの作家です。邦訳もある『マンハッタンの哀愁』（*Trois chambres à Manhattan*）といった本格小説の書き手としても有名ですが、シムノンの世界的名声は何よりもまず、メグレ警視（*commissaire Maigret*）を主人公とする一連の推理小説に負っています。メグレ警視のシリーズは長編が 75 作、中短編が 25 作あり、今でもフランスの書店の棚には必ずと言っていいほど文庫本が並んでいます。

今学期の教材である『男の首』では、パリのモンパルナスにあるクーポール (La Coupole) というブラスリーを舞台の一つとして、ある殺人事件の真犯人をメグレが追っていきます。この作品は、ほかのメグレものがそうであるように、たんに推理の楽しみだけでなく、心理小説の側面も兼ね備えています。今学期の授業では、何度も映画化・テレビドラマ化されている『男の首』のリライト版をまるごと一冊、ときには原作そのものの表現とも見比べながら、読んでいきます。

教材・参考文献

Georges Simenon, *La Tête d'un homme*, Paris, Hachette, adaptation du texte par Charles Milou, coll. « Lire en Français Facile », 2014.

提出課題・試験・成績評価の方法など

出席 (20%)、宿題・ディクテ (20%)、期末試験 (60%)